

広報かなぎ

平成15年10月号 No.450



カマを手に 収穫だあ!

10月9日、嘉瀬小学校4～5年生の
稲刈り体験。

町の花

さくら

町の鳥

ひばり

町の木

ひば

平成14年度 決算報告

一般会計実質収支

8,993万円の黒字決算

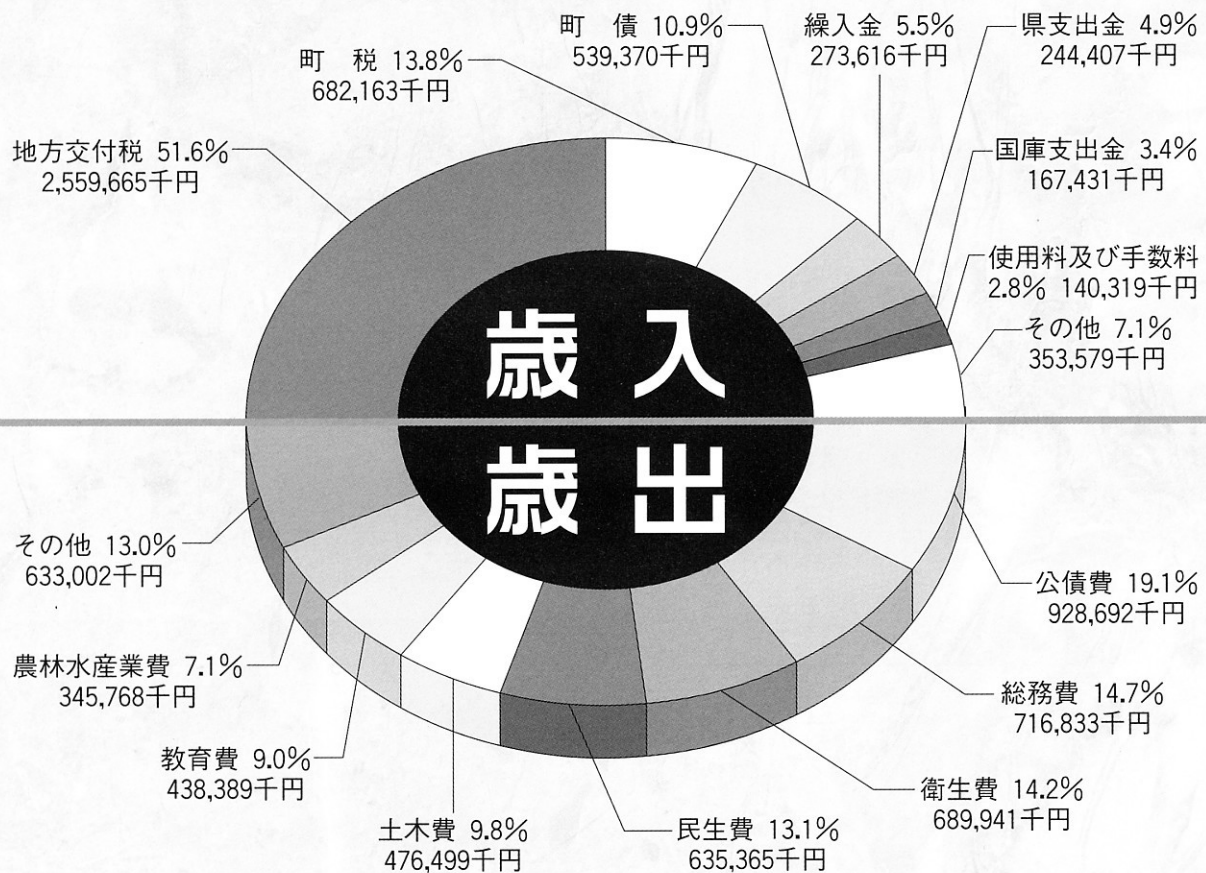
9月に開かれた定例議会で、平成14年度の一般会計と特別会計の各決算が認定されました。

一般会計決算額は、歳入総額で49億6,055万0,074円(対前年度比7.63%減)、歳出総額が48億6,448万8,661円(対前年度比7.02%減)となっています。

単純に差引いた形式収支の9,606万1,413円から、繰越明許費613万6,000円を差引いた実質収支は8,992万5,413円の黒字で、この内、4,992万5,413円を財政調整基金へ、2,000万円を減債基金へ積立し、2,000万円を翌年度へ繰越しとなりました。

皆さんから頂いた税金や国からの地方交付税の使いみち等のお知らせします。

収入済額 49億6,055万円



支出済額 48億6,449万円

町民1人当たり使われたお金

総額 412,350円



※1人当たりの金額は、平成15年3月31日現在の町の人口11,797人で割ったものです。

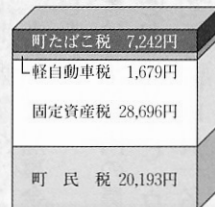
町税内訳

(単位：千円)

区分	収入済額	収入未済額
町民税	238,217	17,265
固定資産税	338,528	65,523
軽自動車税	19,810	1,219
町たばこ税	85,436	0
特別土地保育税	172	0
計	682,163	84,007

町民1人当たりの税負担

総額 57,810円



※1人当たりの金額は、平成15年3月31日現在の町の人口11,797人で割ったものです。

主な歳出の内訳

(単位：千円)

◆総務費・消防費	
地方バス路線維持補助金	10,045
市町村合併対策費	10,441
地籍調査事業委託費	7,854
宅地評価関連業務委託料	7,762
住民基本台帳ネットワークシステム導入業務委託料	4,200
常備消防費	307,165
消防施設費	20,375
◆民生費・衛生費	
町社会福祉協議会補助金	10,175
在宅介護支援センター運営業務委託料	8,488
更生援護施設事務費	17,107
重度心身障害者医療費助成	25,721
介護保険特別会計繰出金	132,007
国民健康保険特別会計繰出金	118,980
老人保健特別会計繰出金	58,719
西北五環境整備事務組合負担金	88,858
公立金木病院組合負担金	207,271
◆農林水産業費	
適地適作推進事業補助金	10,437
あおもり施設農業拡大対策事業補助金	7,870
転作作物振興対策費補助金	6,353
中山間地域等直接支払制度交付金	20,524
農業生産総合対策条件整備事業補助金	18,683
広域農道防雪柵設置取納工事費	10,889
ふるさと農道緊急整備事業工事費	35,247
農業集落排水事業特別会計繰出金	25,239
◆商工費	
県信用保証協会(近代化資金)	17,000
商工会助成金	4,000
桜まつり助成金	6,000
芦野公園管理費	21,506
津軽三味線会館管理費	19,165
◆土木費	
道路維持費	62,876
防雪対策費	101,024
新ふるさとづくり町道整備事業費	256,336
◆教育費	
金木小学校管理費	40,116
川倉小学校管理費	13,291
嘉瀬小学校管理費	29,347
喜良市小学校管理費	23,344
金木中学校管理費	38,168
金木南中学校管理費	30,219
公民館費	42,000
太宰治記念館管理運営費	29,564
海洋センター管理運営費	11,356
嘉瀬スキー場整備工事費	34,371
◆その他	
農林水産業施設災害復旧費	29,495
防災対策費	15,217
長期債元金	716,884
長期債利子及び一時借入金利子	211,808

性質別経費内訳

区分	平成14年度	平成13年度	増減	
	決算額(千円)	決算額(千円)		
人件費	1,297,898	1,334,957	△37,059	
物件費	501,722	503,098	△1,376	
維持補修費	86,779	76,580	10,199	
扶助的経費	147,213	150,202	△2,989	
補助的経費	870,058	875,362	△5,304	
内訳	一部事務組合に対するもの	414,977	383,867	31,110
	その他	455,081	491,495	△36,414
公債費	928,973	833,166	95,807	
内訳	元利償還金	928,731	832,889	95,842
	一時借入金利子	242	277	△35
積立金	44,396	155,946	△111,550	
投資、出資金、貸付金	24,580	24,580	0	
繰出金	334,722	291,644	43,078	
投資的経費	628,148	986,229	△358,081	
内訳	普通建設事業費	579,461	926,164	△346,703
	補助事業費	96,024	60,799	35,225
	単独事業費	474,645	783,054	△308,409
	県営事業費	8,792	82,311	△73,519
災害復旧事業費	48,687	60,065	△11,378	
歳出合計	4,864,489	5,231,764	△367,275	

特別会計

国民健康保険	歳入	1,283,810,008円
	歳出	1,221,539,385円
老人保健	歳入	1,156,297,053円
	歳出	1,163,564,531円
農業集落排水事業	歳入	152,537,082円
	歳出	151,108,082円
介護保険	歳入	855,638,849円
	歳出	846,454,361円
水道事業	収益的収入	299,521,027円
	収益的支出	265,329,220円
	資本的収入	0円
	資本的支出	184,953,412円

※差引不足額7,267,478円は、翌年度歳入繰上充用金で補填。

※資本的収支差引不足額184,953,412円は、過年度損益勘定保留資金で補填。

青森県あすなる農村女性ホープ21

「ふれあいの翼」体験記

県内の農村女性を対象に、ヨーロッパの農家と交流して国際的視野を広げ、環境にやさしい農業・農村の取り組みを体験調査し、本県の農業の活性化につなげようと「青森県あすなる農村女性ホープ21・ふれあいの翼」が行われ、当町から角田和子さん（金木）が参加しました。

八月二十五日から九月四日までの十一日間研修をした角田さんの体験記を紹介します。



角田 和子さん

このたび私は、青森県が主催する「あすなる農村女性ホープ21・ふれあいの翼推進事業」による平成十五年度海外体験調査に参加しました。派遣先はドイツとイタリアです。冷夏が続く青森県を八月二十五日に出発し、千葉県成田市に一泊、ドイツに四泊、イタリアに四泊し、九月四日無事金木に到着しました。

参加者は青森県内の農村女性十四名（内VIC・ウィマン十名）と県職員一名の十五名で、とても楽しく有

意義な十一日間の旅でした。海外旅行は初めてなので行く前は不安でいっぱいでしたが、天候にも恵まれ、一生の思い出に残る旅でした。では、特に思い出深かった内容について紹介したいと思います。

八月二十五日、青森空港から羽田へと飛び、その日は成田に泊まり、次の日ドイツのフランクフルトへと向かいました。約十二時間の空の旅で、フランクフルトには夕方着きました。街並みは古い建物が大切に使われている様子が至るところで見受けられ、ただただびっくりしました。バスから見える畑の広さにもびっくりしましたが、広さは日本と同じ位だということ

した。建物が見えなければ金木の山中の整備された道路を走っているという感じでした。というのも、まわりに生えている木や草が日本にあるものばかりだったからです。

八月二十七日、フランクフルトの国際有機農業運動連盟（IFOAM）や有機農産物生産農家を訪問しました。そこで学んだことは、有機は特別なものではないこと。これまでの農業は各国でいろいろな問題が多く出てきており、農産物が発展途上国に安く売られるという弊害も出ているそうです。



ボンでの有機農産物生産農家視察

二十八日は、フランクフルト青果卸売市場を見学し、日本で売られているものや形の違うもの、売られていないもの、大きさが日本と

極端に違うものなどさまざままでした。昔はスーパーなどなかったことから、青果物が六十万トンから六十二万トンも売り上げがあったそうですが、今は半分位になっってしまったそうです。

現在、外国の物とドイツの青果物の比率は七三だそうですね。翌日、フランクフルト食肉市場も見ましたが、扱う量の多さ、建物の清潔さにびっくりしました。一般の人が買っていく量の多さにも驚き、日本人との食生活の違いを見たような気がしました。

八月三十日には、イタリアのミラノに飛行機で向かいました。ミラノでは文化施設を見学し、ドイツとはまた違う芸術的な街並みを見ることができました。至るところに石像やモニュメント、芸術的な建築物がありました。

九月一日には、イタリアのトリノでスローフード協会を訪ね、改めて食の大切さを知ることができました。今、私達が食べているものや味は大きな企業によって決められ、世界中で同じ品質の商品が作られていると



フランクフルトでの小売現場視察

いうこと。食品がどのようなところで作られているか消費者は知らない。そのため、本物の味を知る人、賢い消費者を作るということ（食育）が大切だということでした。



拡声器で呼びかけながら遭難者を探す捜索隊



発見現場の雑木を使い簡易タンカを作る消防署員



遭難者を簡易タンカに載せ現地本部に向う捜索隊

山岳遭難 救助訓練実施

本格的なキノコ採りシーズン前の九月二十五日、青森県山岳遭難防止協議会金木支部（支部長＝平井葵金木警察署長）による山岳遭難救助訓練が喜良市山の母沢なつかしの溪流砂防公園に現地本部を設置して行われた。

キノコ採りの住民が現地本部から1km付近に自家用車を置いたまま行方不明という想定で行われた訓練には、支部加盟団体の警察署員、森林管理署員、消防署員、消防団員ら七十七名が参加し、八班編成の二班一組で母沢周辺の林道四カ所を拡声器で呼びかけながら遭難者を探した。常家戸沢林道を探した一・二班の捜索隊が車両発見場所から二・五km付近で沢に転落し左足首骨折(想定)の遭難者を発見。緊急処置を施した遭難者を雑木による簡易タンカで現地本部に搬送し訓練を終了した。

訓練を終えて参加者たちは、実際の遭難時の対応を再確認しました。

つがる西北五広域観光コンシェルジュ ブロックディスカッション

津軽西北五地域の観光分野に、「地元ならではの心ある、人情味豊かで、親身なおもてなし」を地域に浸透させる地域観光コンシェルジュ（地域全体の観光案内人）を養成する観光ブロックディスカッションが、つがる西北五広域連合（連合長＝成田守）主催で10月9日、商工会館1階ホールで開催されました。

第1回目となる今回は、五所川原市から小泊村までの5市町村に鱒ヶ沢町と木造町の観光施設、観光団体等の関係者約50人が参加し、『ノスタルジック文学コースに見る現状と課題と今後』をテーマに道の駅十三湖高原駅長の山内守榮氏ら観光事業者5人のパネリストに、グランドハイアット東京でチーフコンシェルジュを勤める阿部佳氏をアドバイザーに迎え、角田周氏がコーディネーターとなり行われました。

各パネリストから「りっぱな観光施設があるのに観光客への地域住民もふくめて表現、おもてなしができていない」「PRがへた。点と点での観光でネットワークができていない」「観光を産業と考えていない」など観光客への接客や言葉など地域観光に関する問題点を提起。

これについて阿部氏は「観光とはその人が喜んで帰るのが第一。観光とはあらゆる分野につながっており、こういう所で自分に利益があることを認識させることが大切。まず今一度、観光客の目でもって、遠慮深さをとりプロ意識をもってお客の視点に立ってください」とアドバイスしていました。

